

古典の日推進フォーラム2012

日時：2012年11月1日(木)午後1時30分～4時30分

場所：国立京都国際会館メインホール(京都市左京区宝ヶ池)

内容：総合司会 中川緑(元NHK京都放送局アナウンサー)

◆筑前琵琶「那須與市」

田中旭泉、酒井むい、酒井自然(筑前琵琶奏者)



◆あいさつ

古典の日推進よびかけ人代表 千玄室(茶道裏千家前家元)

古典の日推進よびかけ人 瀬戸内寂聴(作家)

古典の日推進委員会会長 村田純一



◆祝辞 文化庁長官 近藤誠一

古典の日推進議員連盟顧問・衆議院議員 伊吹文明

◆「古典の日に関する法律」制定の報告

古典の日推進よびかけ人 芳賀徹(国際日本文化研究センター名誉教授)

◆第4回「古典の日」記念朗読コンテスト表彰式

大賞受賞者による朗読

【中学・高校生部門】『伊勢物語』九段 加藤広祐

【一般部門】『平家物語』卷第十一「先帝身投」 松原あかね



審査講評と朗読・歌唱 審査委員長 新井満(作家・作詞作曲家)

「古典の楽しい味わい方」をテーマに、朗読コンテストの審査講評と、ご自身の歌唱・朗読「万葉恋歌 ああ、君待つと」を披露。「万葉集」の恋歌が、千年の時を超え、21世紀のラブソングとして蘇り、現代の私たちの心に響きました。



◆講演「生きている古典」五木寛之(作家)



「古くて値打ちのあるものだけが古典として扱われているのではなく、不運にも失われたり、忘れられてしまった作品も山ほどある。また、古典だからといって必ずしも立派なものとは限らず、今の時代においても感動を得られるかには疑問のあるものもある。古典という肩書きに惑わされず、本物の古典を自分の目で見出すこと、そして、古典作品が書かれたときの時代を想像し、その時代の人々の心持ちになって読むことが大切」と語られ、高校時代のエピソードを交えながら、自分の古典を50冊リストアップすること、また、現代の作品の中から未来の古典となるべきものを自分のために50冊リストアップすることを勧められました。

また、朗読コンテストに触れながら、古典作品が本来口承で伝えられていることから、音読の大切さを説かれ、何千年たってもなお現代人の心に訴えかけてくる古典の力について改めて考えさせられました。

◆半能「石橋 和合連獅子」

シテ 金剛永謹 金剛龍謹

笛 左鴻 泰弘

小鼓 曾和 尚靖

大鼓 谷口 正壽

太鼓 前川 光範

地謡 今井 清隆、種田 道一、廣田 泰能、宇高 竜成

後見 廣田 幸稔、豊嶋 幸洋

